

熊本市男女共同参画センターはあもにいの取組内容

※原則すべて託児付き(年齢、人数制限あり)

【令和2年度実施済】

① はあもにいウィメンズカレッジ(全10回)(①～⑧対面講座、⑨ZOOMによるオンライン講座)

[内容] 熊本市における男女共同参画社会の実現を目指し、政策や方針決定の場に参画し、審議員や職場、地域のリーダーとして活躍できる指導的地位に立つ女性人材の発掘や育成、さらには継続できるネットワークの構築を目的として開講。令和2年度で7期目。令和2年7月時点での修了生による審議員等への就任は8名(過去就任者は含まず。また報告があったものみの数)。第7期受講生19名

[講師] ①澤田道夫氏(熊本県立大学総合管理学部教授)②野田恭子氏(Career Wave 代表/熊本大学非常勤講師)③越地真一郎氏(NIE ファシリテーター)④伊藤比呂美氏(詩人/早稲田大学文学学術院教授)・大場隆氏(熊本大学病院産科婦人科准教授)⑤八幡彩子氏(熊本大学大学院教育学研究科教授)⑥平野みどり氏(元県議会議員)⑦森あい氏(弁護士・くまにじメンバー)⑧谷口絹枝氏(日本近代文学研究者)⑨宮本真紀氏(第5期修了生/電話対応コンクール全国大会優勝者)

※注 第10回修了式は、コロナ感染症拡大予防のため3月に延期

② 無料防災出前講座「熊本地震を経験した私たちが提案する 男女共同参画の視点に立った防災」

(①～⑤対面講座、⑥⑦ZOOMによる完全オンライン講座)

[内容] 熊本地震での経験をもとに、男女共同参画の視点から災害時の不安や困難、起こりうるリスクについての防災講座を実施。防災会議や避難所運営への女性参画の重要性の啓発のほか、大規模災害発声時における多様な立場の人の困難(例えば共働き世帯における固定的性別役割分担意識の問題など)に対する支援や配慮、備えの啓発。受講生約300名見込み(7団体)。

[講師] はあもにい職員

③ 男女共同参画基礎講座「熊本が生んだ詩人:高群逸枝」(対面講座)

[内容] 『母系制の研究』や『招婿婚の研究』などの著作によって女性史研究分野の発展に寄与した女性史研究の先駆者として知られる高群逸枝。若くして詩人として認められ活躍した側面はあまり知られていない。郷土・熊本出身の先駆けの女性の一人として、夫の全面協力を得て、大きな業績を残した高群の文学者(詩人)としての側面について学ぶ機会を提供。受講23名

[講師] 谷口絹枝氏(日本近代文学研究者)

④ 女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス(出張講座)

[内容] 九州ルーテル学院大学保育コース3年生を対象に、人生百年時代の設計図を描き、社会の変化とワーク・ライフ・バランス、自分の仕事時間をどう設計するか等について、個人ワークやグループワーク等を行う出前講座を実施。

受講34名(女性30、男性4)

[講師] 熊野たまみ氏(株式会社 adapt next.代表、協働アドバイザー、コミュニティカウンセラー)

⑤ テレワーク推進学習会(全4回) (ZOOMによるオンライン講座)

[内容] ICT を活用し、時間や場所を有効に活用できる「テレワーク」。新型コロナウイルスの影響でその認知度が高まり注目されたものの企業の本格的な導入には課題が多い。前年に引き続き、テレワーク導入を希望する企業を対象に熊本県中小企業家同友会と共催で全4回開催。

セミナー参加者①10名 ②9名 ③7名④5名 のべ31名

[講師] ①②④鏡照美氏(熊本県中小企業家同友会女性部会長)※同友会より派遣 ③石井聖博氏(株式会社 WORK SMILE LABO 代表取締役)、吉永令子氏(昨年度参加者、導入企業事例 発表者として)

⑥ メンズ・カレッジ ～男性に知ってほしい男女共同参画とダイバーシティ～(全3回) (対面の講座)

[内容] 男女共同参画社会の実現のためには女性だけでなく男性の理解が不可欠であることから、男性向けの男女共同参画基礎講座を平成31年度から開催。企業の成長戦略としての男女共同参画、SDGs、LGBT など、男女共同参画とダイバーシティについて学ぶ機会を創出する講座。第3回のLGBTの講座は、ウィメンズカレッジと合同開催。

受講:①18名②12名③15名 のべ45名

[講師] ①鈴木桂樹氏(熊本大学法学部教授) ②熊野たまみ氏(SDGs de 地方創生ゲーム公認ファシリテーター、株式会社 adapt next.代表)③森あい氏(弁護士・くまにじメンバー)

⑦ 市民グループ企画「パパの手で作る赤ちゃんのハッピータイム♪」 (対面の講座)

[内容] 市民グループ発案の企画を採択して実施。講座内で、父親がベビーダンスを通して赤ちゃんに対しての接し方を積極的に経験することにより、子どもと触れ合う喜びや育児への自信となり、今後の積極的な育児参加に繋がることを期待して実施した。主な目的は、仕事と家事の両立や育児休暇等の取得、男性の育児に対する意識啓発等。 参加:6組18名

[講師] 津田裕子氏(一般財団法人 日本ベビーダンス協会認定インストラクター)

⑧ オンラインで学ぶアフターコロナに役立つビジネスコミュニケーションスキル講座(全2回)

(ZOOMによるオンライン講座)

[内容] 対人応対に不安がある方、対応の基本を見直したい方のためのコミュニケーション講座。発声・発音の基礎から、言葉遣いの基本、電話対応等を学ぶ。オンラインでの実施という点を活かし、ウェブ会議や打ち合わせなどでも相手に伝わりやすい発声方法や表情の作り方などのスキルアップも行った。

受講①10名(女性5、男性5) ②9名(女性6、男性3) のべ19名

[講師] 野村留美子氏(株式会社ニットー代表取締役)

⑨ ソーシャルビジネス基礎講座(全2回) (ZOOMによるオンライン講座)

[内容] 地域の課題を解決する起業家を目指している方を対象に、ソーシャルビジネスの基礎を学び、自身のアイデアを具体化し、事業計画を立てる講座を実施。受講①7名(女性6・男性1)②7名(女性6・男性1)のべ14名

[講師] 中川直洋氏(ソーシャルビジネス・ドリームパートナーズ専務理事)、渡邊千恵子氏(㈱アバンティ代表取締役)

⑩ また働きたい私のお仕事プランニング(全2回) (ZOOMと対面のハイブリッド講座)

[内容] 結婚・子育て・介護等で離職し、主軸を家庭に置いている女性が、再就職を目指すにあたって抱える不安や自分のありたい姿について考える講座。

①21名(会場11、オンライン10) ②20名(会場11、オンライン9)

【実施中】

⑪ 日商簿記3級資格取得講座(全21回) (対面講座)

[内容] 就職の際、求められる能力として常に上位にある簿記の資格を取得するための講座を低価格で実施。4月開講予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため、12月スタートに延期。受講は20名(女性17名、男性3名)。

[講師] 大村賢誠氏(元熊本県立熊本商業高等学校教諭)

【2月実施予定】

⑫ はあもにい働き方相談所(毎月第3水曜日)

[内容] 熊本市男女共同参画課、労働局と連携し、就業や転職に関するさまざまな相談に対応。新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため、1月20日は中止。次回開催予定日は2月17日(水)。

[相談員]ハローワーク熊本相談員

⑬ 今さら聞けないビジネスマナー講座

[内容] 相手からの印象を左右し、結果として仕事の評価につながることもある重要なスキル「ビジネスマナー」。キャリアを積んでいく中で、ビジネスマナーの基本を学び直し、その時世に合った内容をアップデートする機会は少ないことから、キャリア・スキルアップを目指す方、再就職を目指す方を対象に「今さら聞けないビジネスマナー」を学ぶ講座を実施。講座実施予定日は2月20日(土)。定員20名。

[講師] 鶴田陽子氏(肥銀ビジネス教育株式会社ビジネスマナー室)

⑭ 多様な働き方・生き方を考える男のカフェトーク

[内容] 多様性のあるキャリアや働き方が求められている現代社会においても、まだフルタイム・終身雇用の観点で仕事中心に生きている男性が多い。コーヒーを飲みながら、多様性のある働き方・キャリアについて視野を広げ、豊かで幸せな人生について考えるきっかけとなる講座を開催する。実施予定日は2月27日(土)。定員15名。

[講師] 三浦 裕氏(熊本大学研究員)、内山 渉氏(るるわ珈琲、コーヒーマイスター)

⑮ 父と子の防災サバイバルブレスレット作り

[内容] 父親と子どもとが、パラコードによるサバイバルブレスレットを一緒に作り共同作業による一体感を味わう中で親子の絆を深めるとともに、防災についての興味関心を高める機会や、仕事以外の家庭での役割を見つめ直す機会とする講座。講座実施予定日は2月28日(日)。定員10組。

[講師] 皆川由貴子氏(あそび寺子屋代表)

【3月実施予定】

⑯ はあもにいウィメンズカレッジ修了式

〔内容〕 第7期の受講生の成果発表会と修了証書の授与式を行う。

全9回の講座を受講して学んだこと及び今後その学びをどのように生かしていくかについて一人3分で発表する。開催予定日は3月7日(日)。

⑰ ミモザフェスティバル

〔内容〕 3月8日の国際女性デー(ミモザの日)を記念し、すべての女性がいいきと自分の個性や能力を発揮できる社会を目標に、国際女性デーおよびはあもにいの活動の周知のため開催。詳細検討中。

【課題】

令和2年度の活動は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、講座のオンライン化をはじめとするさまざまな感染予防対策が求められました。その中で、女性活躍推進の歩みを止めないため、また、より充実させていくため、以下を課題と捉えています。

◎オンライン講座の充実とともに、参加できない人たちを取り残さない配慮と工夫

オンライン講座の受講には、受信や機器などの環境が整っていなければなりません。また、機器操作に不慣れで積極的になれない人もいます。そういった人たちを取り残さないため、丁寧な説明やハイブリッド型講座の提供を行っていますが、これは継続的な課題と考えています。

◎講座におけるワークショップ・交流に代わる対応策の確立

対面講座ができた場合も、ワークショップや交流事業は行えないため、受講生自らが考えを深め、披露し合う場が作りにくい状況にあります。交流事業も行えない中、「ともに学ぶ」良さ、効果を生み出すための策を模索しています。オンラインでは、一人一人発言してもらったり、意見を交換しあったりできる面はあり、組み合わせることが一つの解決策になるとは考えます。

◎コロナ禍の中での支援グループとの交流と連携のあり方

男女共同参画を推進する団体には高齢のメンバーも多く、来館してもらうことも、会議にオンラインで参加することもできないケースがありました。活動自体ができずにおられる状況も聞かれました。発表の場である「はあもにいフェスタ」を今後、どのように開催していくのか、これもコロナ禍の中の継続課題です。

◎男女ともに在宅時間が長くなってきたことによる固定的性別役割分担の顕在化への警鐘・啓発

テレワークを含め自宅に家族がいる時間が長くなり、お互い仕事をしていても、例えば昼ご飯を作るのは女性、子どもの面倒を見るのも女性、といった固定的性別役割分担が強く出ているという報道もあり、このタイミングでの啓発が求められましたが、すぐに使える素材や手段が見つけれず、十分な対応ができませんでした。いつでも提供できる自前の素材の必要性を感じ、年度末に向け、冊子を作成中です。